地元報告　　08.11.22　非核平和条例を考える全国集会 in 金沢

ユン・ボンギル共の会　森　一敏

韓国独立運動の英雄尹奉吉義士暗葬之跡　を仲立ちとする自治体平和交流について

１．歴史的経緯

1932 年 4 月 29 日、当時の天長節の日、上海に於いて、韓国では日本植民地支配からの独立闘争の英雄と尊敬される尹奉吉（ユン・ボンギル）義士が、戦勝祝賀式典壇上の日本侵略軍首脳に向かって爆弾を投擲した。近代史に残る「天長節上海爆弾事件」である。（この爆発で、上海日本人居留民団長河端貞次が即死、第 9 師団長植田謙吉中将・第 3 艦隊司令長官野村吉三郎海軍中将・在上海公使重光葵・在上海総領事村井倉松・上海日本人居留民団書記長友野盛が重傷を負った。重光公使は右脚を失い、野村中将は隻眼・せきがんとなった。白川大将は 5 月 26 日に死亡した。「戦死」）

軍都金沢を本拠とし、大陸侵略の中心部隊として名を馳せた上海派遣軍の主力第 9 師団が尹奉吉義士を捉え、軍法会議を経て同年 12 月 19 日、市郊外の三小牛山陸軍演習場にて銃殺刑に処した。そして、彼の遺体を秘密裏に野田山陸軍墓地崖下に「暗葬」した。

日本敗戦後の 1946 年 3 月、遺体は在日同胞によって発掘され、送還後ソウル市内の孝昌公園に国民葬でもって埋葬された。

それから 46 年後の 1992 年 12 月 19 日（義士命日）、日韓の間で戦後補償問題が高まる中、在日朝鮮韓国人と市民団体の募金活動によって、金沢市の土地支援の下、義士の生地禮山郡「月進会」から揮毫を得て、暗葬之跡碑が設置された。

それに先立つ同年 4 月 21 日には、韓国梅軒尹奉吉義士第６０周年紀念事業推進委員会（会長は後の金永三大統領）と在日本韓国居留民団により、尹奉吉義士殉国紀念碑が、上手に建立されている。

爾来今日まで、遺体発掘に関与した朴仁祚月進会日本支部長（尹奉吉義士日本顕揚会副会長）が中心となって史跡として整備が重ねられてきた。

この史跡の建立によって、在日朝鮮韓国人市民はもちろん、韓国からの旅行者にも尹奉吉義士終焉の地が金沢に存在していることが語り伝えられ、訪れる人々が絶えることはない。また、戦後６０年を越えた今、韓国メディアの関心も高まり、頻繁に取材が行われ、本国に紹介されている。

一方、金沢においても、市民団体の活動や教職員組合の平和教育によって、少しずつではあるが市民の認知も進んでいる。

こうした経過の中から、石川の社民党地方議員団と日本人市民・在日市民からなるユン・ボンギル共の会も 2006 年に設立され、暗葬之跡史蹟の保存・整備、教育・文化・スポーツ交流の促進、人間往来の実施、平和友好促進のための事業を展開している。

２．自治体間、市民間の国際的平和友好交流へ

この近代の不幸な歴史を留める野田山の尹奉吉義士暗葬之跡を機縁として、この間、4 月 29 日「義挙記念日」に執り行われる祭享（さいりょう）と金沢百万石まつりに相互参加することをはじめ、生地禮山郡、禮山郡月進会との間で活発な民間交流を展開してきた。2005 年には、金沢市長と禮山郡守、禮山郡市議会議長と郡議会議長の相互訪問も実現し、交流はより深まりと広がりを得ている。

2006 年の禮山郡訪問時では、韓国民族芸能である農楽を再興し、芸術的価値を高めたサムルノリを創始した四天王のひとり、李光壽率いる民族音楽院と出会い、文化祭典で和太鼓グループ「鼓民」とのコラボレーションが実現した。これ以来、同年 10 月に金沢国際交流まつりへの民族音楽院の招聘、昨年 6 月の門前地区震災慰問公演、百万石まつりおまつり広場公演と民族音楽院との交流が深められてきた。こうした活動により、韓国芸能の愛好者や聴衆となった韓流ブームにある市民にも、植民地

支配と独立運動の歴史への認識が伝えられることになった。

戦後補償、領土問題、歴史教科書問題、靖国公式参拝問題などで、日本の側の歴史認識、外交姿勢が問われる状況は、残念ながら改善されてはいない。いやむしろ、今年に入ってさらに、文科省の新学習指導要領解説書に竹島の領土記述が行われたり、航空自衛隊制服組最高幹部が日本の侵略を否認し、集団的自衛権を肯定する懸賞論文を投稿して航空自衛隊幕僚長を解任されるなど、蹂躙された韓国の人々からすれば、日本の政治への不信感は募る一方である。その影響を受け、現在姉妹都市である韓国全州市との相互交流は、議会間交流をはじめ停止を余儀なくされている。

しかしながら、私たちの禮山郡との交流は、国家間の問題を受けて何度か困難に直面してきたが、その都度乗り越えてきた。それは、積み重ねてきた信頼関係、何にもまして私たちは植民地支配を正視し、その非道をわび、過ちを国家に繰り返させない決意をもって交流に臨んでいることがよく理解されているからである。その意味でも、日本の植民地支配の歴史を共有した日韓の官民の自治体間交流が促進されることは、東アジアの平和構築に寄与する意義深いものがある。

【　解　説　】

祭享（韓国読み　チェヒャン）

祭事の尊敬語。4月29日を上海義挙賞賛日と定め、尹奉吉義士の魂を祭る。

出身地の忠義祠で毎年、政府・禮山郡・月進会で祭典が行われてきた。義士を生んだ禮山郡は、より盛大な祭享を願い、義士が創った月進会主導の文化祭（ムンファジェ）として1973年から開催されてきた。郡内で30余種目が行われる文化祭は、時には10日間に及ぶ。祭享は、今では郡内の一大年中行事となった。（観客約10万人）

月進会とは、尹奉吉義士が農民運動中に組織し、戦争によって義挙後当局の弾圧下で地下に潜り、戦後再建された尹奉吉宣揚の最大団体である。

３．金沢市の自治体平和外交としての位置づけをめぐる課題

08 年は、尹奉吉義士 100 周年の年である。この記念すべき年の第 35 回祭享に臨んで、月新会の尹圭相会長は述べた。「今世界の問題は格差である。国々が国境を持って対峙し、その国々の内部でも格差が拡大している。このあたりでいっそ国境を取り払ってみてはどうか。そうすれば軍備は必要なくなり、その金を持って世界の窮民を救済できるからだ。尹奉吉義士の心は韓国民族の解放にとどまらず、東洋平和、すなわち世界に平和をもたらすことにあった。」と力説し、義士の心を引き継ぎ、世界平和を目指す事業に参加するよう呼びかけた。私たちは、これを国境を越え民族を越えた平和のための国際連帯の呼びかけと受け止めている。

しかし、蹂躙した側の日本でもまた、彼をテロリストと呼び、民族主義に立った感情的な反応を示す政治家や市民も少なくない。そうした環境にあって、金沢市当局は、尹奉吉義士に関わる施策への対応に慎重である。

私たちは、世界都市構想を具現化しようとする金沢市は、アジアとの架け橋足りうる足元の国際化が必要だと訴えている。議会における市長との議論の要旨を掲載しておく。

〔2004 年 6 月議会本会議質問より抜粋〕

森議員：ユン・ボンギルゆかりの野田山は、地方における日韓親善外交の要所となっていくに違いない。現在は雨をしのいだり、腰を下ろして懇談する場もない現地に、せめて休息のできる小屋の設置などの史跡整備をせよ。

市長　：野田山のユン・ボンギル義士ゆかりの地に来てくださる人の数からして、休憩小屋を作る考えはない。大きい団体が来られることになったら、テントの貸与などの便宜を図りたい。

森議員：学校や生涯学習の現場へユン・ボンギルに関する資料を提供し、金沢市民の歴史認識を高めるとともに、国際的な史跡として観光マップに掲載するなど、観光産業とも連携して周知を図ってはどうか。

市長　：観光マップへの掲載をということだが、彼の地は慰霊の場であり観光の場とはしない。

森議員：姉妹都市全州市とともに、もう一つの交流地域として禮山郡を位置づけ、中国蘇州市とも結んだ日中韓の友好交流をさらに推し進めることを私も提言する。

市長　：姉妹都市を増やすことはできないが、禮山郡とは交流はしっかりやりたい。戦争は絶対に避けなければならない。相互に理解しあうことが大事だと考える。誠意を持ってとりくむ。

森議員：（再質問）今後の日韓関係はもっと深まり、人の行き来も活発化するだろう。政府要人の来訪もあるかもしれない。今のうちに整備し、金沢の心意気を示してはどうか。

市長　：関係の方々は、市有地に碑を建てられた。市もそれなりのとりくみをしてきたことを理解してほしい。テントの貸与など個々のケースに応じて丁寧に対応していくべきと考えている。

〔2008 年 3 月議会本会議質問　世界都市金沢の創造についてより抜粋〕

森議員：野田山のユン・ボンギル史跡を金沢と韓国、ひいては中国・アジアを結ぶ近代史の歴史的なかけはしとしてプロモーション事業に組み込み、情報発信するとともに、同史跡に資料館の性格を持たせ、野田山の拠点施設の一つとして再整備してはいかがか。

市長　：史跡を訪れる方々は、亡くなった人とのつながりの場として訪れていると思う。敬虔さ、静溢さを大切にしたい。したがって、観光プロモーションの手段にはしたくない。資料館整備は考えていないが、日韓親善、世界平和の啓発に努力していきたい。

森議員：外国人市民の抱える課題は、地域社会の構造が抱える問題であり、金沢の共生社会醸成に、今一歩進んだ行政のリーダーシップが求められる。そのために、国際交流財団と多文化共生研究会が生み出してきた成果や浮かび上がってきた課題をくみ取り、制度上の整備を行う庁内執行体制について、再検討を行う時期ではないか。

市長　：防災情報、消防情報、病院、ゴミ出し等の外国語による情報提供を行ってきた。言葉からコミュニケーションが生まれるので、行政情報をわかりやすく伝えていきたい。部局横断的なチームを編成し、関係団体とも連携して一つ一つ丁寧に取り組んでいく。

森議員：多文化共生に関わる教育条件整備について、教育長はどのように考えているか。

教育長：県教委が設置を認め、教員を配置している。生活に必要な言葉、母語、母文化にも配慮されている。必要に応じ、指導員を学校に配置している。

森議員：市職員採用に係る国籍条項の撤廃については、国籍を超えた共生の潮流は、力強さを増している。公権力の行使、公の意思形成に携わる職は日本国籍に限るとされた「当然の法理」は法的には既に破綻し、自治体の主体性と人権感覚が問われることになっている。本市が真に世界都市としての内実を獲得する意味でも、鋭意検討し、一日も早い撤廃に踏み出すことを期待して次の質問に移る

先ほど触れているが、本市は 7 番目の姉妹都市提携を 2003 年に韓国の全州市と締結している。全州市議会の公式訪問団は、必ず野田山の尹奉吉義士暗葬之跡への視察を要望される。義士は、韓国の義務教育に登場し、誰もがその存在を知っている。上海に当時の臨時政府があったことから、抗日戦争の烈士として中国側にも認識されている。私たちは、韓国の全州市、禮山郡、そして古くからの姉妹都市である中国蘇州市とも連携した東アジア平和自治体連帯構想を夢見ている。

http://www.kazutosi.jp/sigikai/reisan08homon.html

尹奉吉義士の肖像（義挙の再現劇にて）　殉国紀念碑（野田山）　生地禮山郡祭享本部行事 08.4.29

尹奉吉義士暗葬之跡碑（金沢市野田山　朴仁祚月進会日本支部長撮影、提供）

禮山郡来訪団と（08.6.6 金沢市議会）　暗葬之跡での法要　尹圭相会長の市民向け講演会

能登半島地震被災地輪島市門前で民族音楽院慰問演奏（07.6）　民族音楽院百万石まつりで演奏（07.6　金沢城公園）　禮山郡文化祭典で和太鼓、津軽三味線演奏（08.4.）